

令和6(2024)年度 病害虫発生予報 第9号

令和6(2024)年12月20日
栃木県農業総合研究センター
環境技術指導部

病害虫の早期発見に努め、適切に防除しましょう！

予想期間 12月下旬～1月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：少ない
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は少ない。(－)
- (3) 対 策 ・ 向こう1か月の気温は低く(+)、降水量は少なく(－)、日照時間は多い見込み。(－)
- (3) 対 策 ・ 多湿条件において発生しやすいので、下葉を除去し株元の風通しをよくするとともに、かん水過多にならないように注意する。
- (3) 対 策 ・ 発病した果実や果梗等は伝染源となるので、速やかに取り除き、施設外で処分する。
- (3) 対 策 ・ 予防を主体に、セイビーフロアブル 20(RAC コード F:12)等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- (4) 備 考 ・ [灰色かび病薬剤感受性結果①、②](#)を当センターホームページ (HP) に掲載中。

2 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並 (ほ場率：平年比93%、株率：平年比50%)。(±)
- (2) 根 拠 ・ 向こう1か月の気温は低く(+)、降水量は少なく(－)、日照時間は多い見込み。(－)
- (3) 対 策 ・ 株が軟弱徒長すると発生しやすくなるので、適正な温度管理やかん水を行う。
- (3) 対 策 ・ 予防を主体に、ベルコートフロアブル(F:M7)等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- (3) 対 策 ・ 曇雨天時にはくん煙剤を使用するが、硫黄くん煙は天敵に対し悪影響があるので天敵導入ほ場では長時間のくん煙処理は避ける。

3 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並 (ほ場率：平年比88%、株率：平年比86%)。(±)
- (2) 根 拠 ・ 向こう1か月の気温は低く(－)、日照時間は多い見込み。(＋)
- (3) 対 策 ・ ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
- (3) 対 策 ・ 化学農薬に対する感受性低下が起りやすいため、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- (3) 対 策 ・ 天敵導入時にハダニ類が多いと失敗しやすいので、天敵導入前に気門封鎖剤や天敵に影響の小さい薬剤を散布し、ハダニ類の増殖を抑制しておく。
- (4) 備 考 ・ [ナミハダニ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

4 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並 (ほ場率：平年比60%、株率：平年比33%)。(±)
- (2) 根 拠 ・ 向こう1か月の気温は低く(－)、日照時間は多い見込み。(＋)
- (3) 対 策 ・ 花を良く観察して、アザミウマ類が見られた場合には、マッチ乳剤(I:15)を散布する。
- (4) 備 考 ・ [防除のポイントNo.19](#)、[アザミウマ薬剤感受性検定結果①、②](#)を当センターHPに掲載中。

5 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：**やや少ない**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや少ない (ほ場率：平年比69%)。(－～±)
- (2) 根 拠 ・ 向こう1か月の気温は低く(+)、降水量は少なく(－)、日照時間は多い見込み。(－)
- (3) 対 策 ・ 施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を用いた通風により、結露防止に努める。
- (3) 対 策 ・ 発病した果実や葉等は伝染源となるので、速やかに取り除き、施設外で処分する。
- (3) 対 策 ・ 予防を主体に、フルピカフロアブル(F:9)等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- (4) 備 考 ・ [灰色かび病薬剤感受性結果①、②](#)を当センターホームページ (HP) に掲載中。

6 トマト すずかび病

- (1) 発生予想 発生量：**多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は多い。(+)
 ・ 向こう1か月の気温は低く(-)、日照時間は多い見込み。(+)
- (3) 対 策 ・ 施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を用いた通風により、結露防止に努める。
 ・ 発病葉は伝染源となるため、発生初期に速やかに取り除き、施設外で処分する。
 ・ トリフミン水和剤(F:3)等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- (4) 備 考 ・ [すずかび病薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

7 果菜類 コナジラミ類 (トマト：黄化葉巻病 (TYLCV)、黄化病 (ToCV)・きゅうり：退緑黄化病 (CCYV))

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在のコナジラミ類の発生量は、トマトでやや多い (ほ場率： 平年比 158%)。(±~+)
 ・ きゅうりではやや多い (ほ場率： 平年比 87%)。(±~+)
 向こう1か月の気温は低く (-)、日照時間は多い見込み。(+)
- (3) 対 策 ・ ウイルスを媒介するコナジラミ類の侵入を防ぐため、ハウスの開口部 (出入り口、側窓、天窗) に 0.4mm 目合以下のネットを張り、特に出入り口は二重にする。
 ・ 黄色粘着板の設置により、コナジラミ類の早期発見に努める。
 ・ ウイルス病の発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取る。抜き取った株は放置せず、土中に埋設するか、ポリ袋などで密封し枯死させてから処分する。
 ・ 耐病性品種を作付けした場合でも、コナジラミ類を防除する。
- (4) 備 考 ・ [防除のポイントNo22、タバココナジラミ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

8 きゅうり べと病

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並 (ほ場率： 平年比 96%、葉率： 平年比 61%)。(±)
 ・ 向こう1か月の気温は低く(-)、降水量は少なく (-)、日照時間は多い見込み。(+)
- (3) 対 策 ・ 施設内が多湿にならないよう適切な換気を行うとともにかん水量に注意する。
 ・ 草勢低下は発生を助長させるので、適正な肥培管理を行う。
 ・ 予防を主体にアリエッティC水和剤(F:M4、P7)等を散布する。
- (4) 備 考 ・ [べと病薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

9 なら 白斑葉枯病

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並 (ほ場率： 平年比 124%、株率： 平年比 32%)。(±)
 ・ 向こう1か月の気温は低く(+)、降水量は少なく (-)、日照時間は多い見込み。(+)
- (3) 対 策 ・ 施設内が多湿にならないよう、日中の気温の高いときを見計らって換気を行う。
 ・ 捨て刈りした葉は伝染源となるため、施設外に持ち出し、適切に処分する。
 ・ 発生初期に、ストロビーフロアブル(F:11)等を散布する。

10 その他の病害虫

| 作物名 | 病害虫名 | 現況 | 発生予想 | 作物名 | 病害虫名 | 現況 | 発生予想 |
|-----|--------|-----|------------|-----|------|-----|------------|
| いちご | アブラムシ類 | 平年並 | 平年並 | きく | ハダニ類 | やや少 | やや少 |

季節の病害虫防除対策

○イネ縞葉枯ウイルスを媒介するヒメトビウンカの状況（11月）と対策

イネ縞葉枯ウイルスを媒介するヒメトビウンカの越冬世代成虫の保毒虫率は県平均で5.0%と平年並、水田畦畔等における生息密度は、県平均で3.9頭と平年より少ない状況でした。一方で、県北部及び中部では、保毒虫率が上昇傾向にあり、要防除水準の10%を超える地点も認められています。次作においても、引き続き、イネ縞葉枯病対策を徹底しましょう。

○トマト・なす等 トマトキバガ

今年度、栃木県内で初めてトマトキバガのフェロモントラップへの誘殺が確認されました（[令和6（2024）年度病害虫発生予察特殊報第1号](#)）。また、本県のトマトで被害が確認されたので、ほ場内をよく観察し、疑わしい虫や被害を見つけた場合には、適切に薬剤防除を行いましょう。

○果樹類病害の冬期防除

整枝・せん定作業時には、罹病枝を取り除くか被害部を削り取り、切口にゆ合剤を塗布しましょう。また、落葉は様々な病害の伝染源となるため、適切に処分しましょう。

農薬の安全使用等

○「[栃木県農薬危害防止運動](#)」実施中（令和6年11月から令和7年1月）です。農薬は適正に管理しましょう。また、農薬を使用する際には、容器のラベルに記載された内容を遵守し、農薬による事故等の発生を防止しましょう。

○薬剤散布の後には必ず作業内容を記録し、防除履歴を作成しましょう。

○薬剤で防除する際には、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布しましょう。

○花粉媒介昆虫のミツバチ、マルハナバチや天敵に対する影響日数に注意して薬剤を選択しましょう。

1か月気象予報（予報期間12月21日から1月20日 12月19日 気象庁発表）

- ・向こう1か月の気温は、寒気の影響を受けやすいため、低いでしょう。
- ・低気圧の影響を受けにくいため、向こう1か月の降水量は少なく、日照時間は多いでしょう。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）

| 項目 | 低い（少ない） | 平年並 | 高い（多い） |
|------|---------|-----|--------|
| 気温 | 50 | 40 | 10 |
| 降水量 | 50 | 30 | 20 |
| 日照時間 | 20 | 30 | 50 |

詳しくは農業総合研究センター 環境技術指導部 防除課（TEL 028-665-1244）までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはX（旧ツイッター）「栃木県農政部(@tochigi_nousei)」、農業総合研究センターホームページ（<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>）でもご覧になれます



～栃木県からのお知らせです～

11月～1月は、「栃木県農薬危害防止運動」の実施期間です。



- ・安全作業の第一歩！ 農薬散布時の身支度は万全に！
- ・いつものチェック！ 農薬使用の際は、ラベルをよく読み正しく使いましょう！
- ・農薬散布のその前に！ 風量や風向きに注意して、飛散防止に努めましょう！
- ・周辺への配慮！ 住宅地等でやむを得ず農薬を使用する際は十分に配慮しましょう！
- ・農薬散布のその後に！ 防除器具の洗浄も必ず行いましょう！